

製品名: MAPK8 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81136**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	48.3kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK8
別名	JNK; JNK1; PRKM8; SAPK1; JNK-46; JNK1A2; SAPK1c; JNK21B1/2
遺伝子 ID	5599.0
SwissProt ID	P45983
免疫原	大腸菌で発現したヒト MAPK8 の精製された組み換え断片。

背景

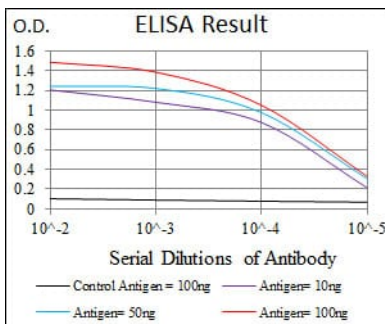
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは、複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達などのさまざまな細胞プロセスに関与しています。このキナーゼは、さま

さまざまな細胞刺激によって活性化され、特定の転写因子を標的とすることで、細胞刺激に応答した前初期遺伝子発現を媒介します。腫瘍壊死因子 α (TNF- α) によるこのキナーゼの活性化は、TNF- α 誘導性アポトーシスに必要であることがわかっています。このキナーゼは、紫外線誘導性アポトーシスにも関与しており、これはシトクロム c を介した細胞死の経路に関連すると考えられています。この遺伝子のマウス対応物の研究では、このキナーゼが T 細胞の増殖、アポトーシス、および分化に重要な役割を果たすことが示唆されました。異なるアイソフォームをコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。

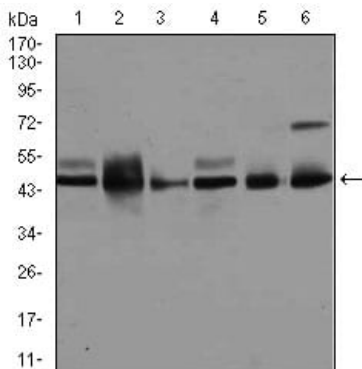
研究分野

TGF- β シグナル伝達経路、MAPK シグナル伝達経路

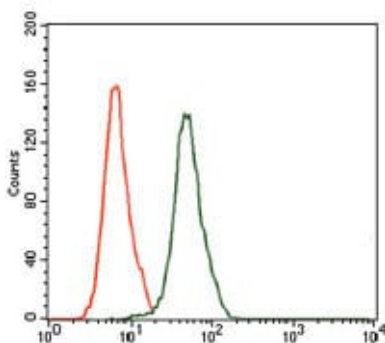
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



A431 (1)、K562 (2)、HeLa (3)、NIH3T3 (4)、PC-12 (5)、および MCF-7 (6) 細胞溶解物に対する MAPK8 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



MAPK8 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。